### 宮田まゆみ（笙） *Mayumi Miyata, sho*

国立音楽大学ピアノ科卒業後、雅楽を学ぶ。東洋の伝統楽器「笙」を国際的に広めた第一人者。古典雅楽はもとより、武満徹、ジョン・ケージ、細川俊夫など現代作品の初演も多く、小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラ、シャルル・デュトワ指揮N響、アンドレ・プレヴィン指揮ニューヨーク・フィル、ウラディーミル・アシュケナージ指揮チェコ・フィル、大野和士指揮ベルギー王立歌劇場管、ジョナサン・ノット指揮バンベルク響、BBC響、WDRケルン放送響ほか国内外のトップオーケストラと共演。ザルツブルク、ウィーン・モデルン、ルツェルン、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、パリの秋、アヴィニヨン、ダルムシュタット、ドナウエッシンゲン、タングルウッドなどの音楽祭での公演、ウィーン、パリ、アムステルダム、ミラノ、ニューヨークなどでのリサイタル等、幅広く活躍している。

### 鈴木生子（クラリネット） *Ikuko Suzuki, clarinet*

東京藝術大学卒業。その後、マンハッタン音楽院及びアムステルダム音楽院（バス・クラリネット専攻）にて修士号を取得。2008年アンサンブル・コンテンポラリーαのメンバーによるリサイタルで、15世紀の作曲家オケゲムから現代日本の作曲家まで幅広いプログラムを演奏。2010年よりリサイタル「ikukoシリーズ」を開催。また「カラダをうまく使うことでもっと自由に吹ける?」との問題意識から、カラダの動きを自身で探る面白さとその変化を実感するフェルデンクライスメソッドを実践中（2003年オランダで指導免許を取得）。アンサンブル・コンテンポラリーα、オブロークラリネットアンサンブル、NYリコリッシュアンサンブルのメンバー。東京都立総合芸術高等学校講師。

# 春・不可視の美をきく

2014年5月18日（日）

11:00開演
（10:30開場）

岐阜現代美術館/NBKコンサートホール
鍋屋バイテック会社関工園内 岐阜県関市桃紅大地1番地 phone:0575-23-1121

Gi-Co-Ma
岐阜現代美術館
Gifu Collection of Modern Arts

### 甲斐史子（ヴァイオリン） *Fumiko Kai, violin*

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。第3回江藤俊哉ヴァイオリン・コンクール第1位、第5回現代音楽演奏コンクール〈競楽V〉第1位、第12回朝日現代音楽賞受賞、2003年度青山バロックザール賞受賞、ドイツ・ダルムシュタットにてクライニヒシュタイナー賞受賞、アンサンブル・ノマドのメンバーとして第2回佐治敬三賞受賞。神奈川フィル、日本フィル等と共演。オランダ「ガウデアムス」、フランス「フェスティヴァル・アテンポ」、イギリス「ハダース・フィールド」等の国際現代音楽祭に出演。2008年、一柳慧率いるアンサンブル・オリジンのメンバーとしてカーネギー・ホールで公演。北京中央音楽学院、国家大劇場、上海音楽学院など中国でも日中現代作品を中心にリサイタル、レクチャーを重ねている。東京藝術大学非常勤講師。

### 松本卓以（チェロ） *Takui Matsumoto, violoncello*

1973年東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中に福島賞受賞。藝大定期においてサン=サーンスのチェロ協奏曲を協演。ソロ、室内楽、オーケストラ奏者として幅広いレパートリーに取り組む一方、特に現代音楽の分野では作曲家との共同作業に力を入れており、これまでに行った初演は150曲を超えている。またバンドネオン奏者小松亮太氏とのタンゴ演奏も意欲的に行っており、これまでに10枚以上のアルバムに参加。ガウデアムス国際現代音楽祭（オランダ）他、国内外の音楽祭に多数出演。アンサンブル・コンテンポラリーα、アンサンブル東風、JSCMユース室内オーケストラ、GEN室内管弦楽団、小松亮太&オルケスタティピカ、エレメンツクァルテットのメンバー。アンサンブル・ノマドレギュラーゲスト。東京藝術大学管弦楽研究部講師。

# PROGRAM

## 斉木由美 *Yumi Saiki*（1964- ）
### アントモフォニーVII *Entomophonie VII*（2014）

タイトルの「アントモフォニー」とは、
ギリシャ語で昆虫を表わす「エントモス」と、
音を表わす「フォネー」をつないでフランス語読みした斉木の造語で、
2001年頃から書き始められた連作である。
笙独奏のための第7作は、コオロギやキリギリスなど、
秋の虫がすだく音風景のスケッチをもとに作曲された。
元来、静的で神聖な雰囲気を携え、持続する響きが魅力の笙であるが、
この曲ではあえて、単音や重音でのリズミックな反復や、
突然の休止など、虫の鳴く音の特徴が取り入れられ、
笙という楽器の新しい可能性もが試みられている。（sho）

## 一柳慧 *Toshi Ichiyanagi*（1933- ）
### 月の変容 *Transfiguration of the Moon*（1988）

一柳慧は、ニューヨークでジョン・ケージらと
実験的音楽活動を展開し、1961年に帰国。
偶然性の導入や図形楽譜を用いた作品、
雅楽・声明を中心とした伝統音楽を用いた
新しい視点によるプロデュース他で様々な分野に強い刺激を与え、
音楽の空間性を追求した独自の作風による作品を発表し続けている。
笙とヴァイオリンという珍しい編成のこの作品も、
時間と空間の中に、西洋と東洋の響きが相互に織り成されている。
（sho+vn）

## ヤニス・クセナキス *Iannis Xenakis*（1922-2001）
### カリスマ *Charisma*（1971）

クセナキスはルーマニア生まれのギリシャ系フランス人の作曲家。
アテネ工科大学で建築と数学を学び、
ル・コルビジェのもとで建築家としても活躍した。
作曲に数学と建築理論を応用し、
緻密で緊張感に満ちた作品を残した。
演奏には超絶技巧を要し至難を極めるが、
演奏家がその困難に立ち向かい乗り越えていくエネルギーに
彼の音楽の本質があるとも言われている。
「カリスマ」はクセナキスの作品としては音数が少ないが、
クラリネット、チェロの無音から最強音までの振り幅が非常に大きく、
音の背後に無限の音楽的空間を感じさせる
スケールの大きな作品である。（cl+vc）

## モーリス・ラヴェル *Maurice Ravel*（1875-1937）
### ヴァイオリンとチェロのためのソナタ *Sonate pour violon et violoncelle*（1920-22）

**第1楽章 アレグロ** *Allegro*
**第2楽章 きわめて活発に** *Très vif*
**第3楽章 ゆるやかに** *Lent*
**第4楽章 生き生きと、活気をもって** *Vif avec entrain*

もともと音楽雑誌の特集企画として第1楽章が書かれ、
その後2年がかりで3つの後続楽章が書かれ、ソナタとして完成。
「クロード・ドビュッシーの追憶に」という献辞を添えて出版された。
簡素で切り詰められた線的な書法は、
ストラヴィンスキーやヒンデミットを旗手とする
第一次世界大戦後の新音楽の傾向を示している一方で、
半音階、教会旋法、ポリフォニーを多用した結果、
随所で無調や多調の響きに満ちており、
バルトークや新ウィーン楽派に対する関心ものぞかせている。（vn+vc）

＊本日は、第1楽章・第2楽章が演奏されます。

## テオ・ルーヴェンディ *Theo Loevendie*（1930- ）
### バス・クラリネット独奏のための二重奏 *Duo for Bass Clarinet Solo*（1988）

タイトルのとおり、1人で演奏するが、二重奏のように聴こえる。
音の高さ・低さでの二重奏であったり、
キャラクターの違いの二重奏であったり･･･。
前半部分では、スラップタンギングと呼ばれる現代奏法
（パチンッというような音がする）が効果的に使われている。
ジャズ・サックス奏者でもあるルーヴェンディの
ジャズ魂を感じさせる作品である。（b.cl）

## 川上統 *Osamu Kawakami*（1979- ）
### 似我蜂 *ammophila*（2014）

「ジガバチ」と読む。細長く漆黒の胴と
その先にある赤い針と脚部をもつ蜂をモチーフとしたもの。
この蜂のことを川上は「密かな警告感」があると評する。
曲は、透明な翅がジガジガと鳴る様子や、狩りをしたり、
卵の状態を経て、最後は食い破り出現するところまで、
ハーモニクス等、チェロの奏法を駆使して表現されている。（vc）

## ロベルト・HP・プラッツ *Robert HP Platz*（1951- ）
### 線香花火 *Senko-hana-bi*（1997）

プラッツはドイツの現代音楽の作曲家、指揮者。
ヴォルフガング・フォルトナーに入門後、シュトックハウゼンに師事。
複数の作品を鎖のように編み合わせる
「フォーム・ポリフォニー」という技法を発案。
プラッツは、日本の文化、
例えば「山水画」からの影響があると語っている。
本作品も線香花火の繊細にも美しい姿に
インスピレーションを得て書かれた。（sho）

## ゾルターン・コダーイ *Zoltán Kodály*（1882-1967）
### 間奏曲 *Intermezzo for String Trio*（1905）

ハンガリーの作曲家コダーイは1歳年上のバルトークと同じく、
作曲と民族音楽研究の双方に功績を残した。
バルトークが戦時中に祖国を離れたのに対し、
コダーイは一貫して踏みとどまり、音楽教育の新しいシステムを開拓、
教育作品も高く評価されている。
民謡収集を始めた時期のものであるこの作品は、
軽快なアレグレットに乗って、少しもの悲しげな旋律が歌われる佳作。
（vn+cl+vc）

＊原曲はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのための作品。
本日はヴィオラのパートはクラリネットによって演奏されます。

**岐阜現代美術館**

ギャラリーでは、現代音楽作曲家斉木由美氏が
インスパイアされた桃紅作品を展示します。
桃紅作品と現代音楽の出会いから生まれる
深い共鳴をお楽しみください。

岐阜県関市桃紅大地1番地（鍋屋バイテック会社関工園内）
phone：0575-23-1210　http://www.gi-co-ma.or.jp/

Gi-Co-Ma
岐阜現代美術館
Gifu Collection of Modern Arts